福島県の中・高校生を静岡県に招待して交流

～平成 24 年度福島招待バスケットボール大会～

清水スポーツクラブ（静岡県）
事務局長　三浦昭彦

チャリティーバスケットボール大会の開催

清水スポーツクラブ（以下、クラブ）は、日本体育協会や静岡県体育協会などのご指導・ご支援をいただきながら、平成 19 年 7 月に設立した総合型地域スポーツクラブです。静岡市清水区を中心として活動を行い、現在、約 350 名の会員を持つクラブとなりました。クラブ発足にあたり、中心になってきた方々の専門がバスケットボールだったため、バスケットボール教室はもちろん、毎年、何かバスケットボールに関わるイベントを行いたいと考えてきました。

そのような時に、会員の一人が、カンボジアに旅行に行きました。日本に比べ生活環境・教育環境が十分に整っていないことを見聞きしたその方から、チャリティーでバスケットボールのイベントを行いたいと申し出てきました。クラブの目的の大きな柱の一つに、社会貢献・地域貢献を挙げていることから、バスケットボールのイベントは、チャリティーで行っていこうという方針を決めました。

第 1 回目の「3on3」の大会も盛況のうちに終了でき、参加費の一部をカンボジアへの支援として寄付しました。以後、スポンサーを募りながら、24 時間チャリティーバスケットボール大会（＊）と隔年で大会を行い、参加費の一部を、静岡市社会福祉協議会に寄付しています。

（＊）詳細はこちらから（公式メールマガジン第 63 号　＜特集＞お試し事業を活用しよう「24 時間チャリティーバスケットボール大会～プロに徹する！～」）
http://www.japan-sports.or.jp/portals/0/data0/local/news/uploadFiles/20110120172654_7.pdf

福島県の中・高校生を静岡に招待したい

東日本大震災後、すぐにでも東北のバスケットボールの仲間を招待して、バスケットボールを通して元気になってもらおうと考えました。しかし、あまりにも被害が大きくスポーツを行える状態ではないと報道等で知り、招待は諦めました。その代わり平成 23 年度は、東日本大震災復興支援と銘打ち、24 時間チャリティーバスケット大会を行いました。その収益は、すべて福島県体育協会へと寄付させていただきました。

そこで平成 24 年度のバスケットボールのイベントは、どうしても福島県の中学生・高校生を静岡に招待して、クラブとの交流会を開きたいと考えました。私の友人が、平成 23 年 6 月に関東地区で、企業とタイアップして東北地域の中学生・高校生を招待してバスケットボール教室を開催しており、その時、福島県で参加者を募る窓口になった方を紹介してもらい連絡をとりました。私たちの趣旨に大いに賛同してもらい、本格的にこの事業が動き出しました。

津波の被害よりも放射能の影響により、思うような生活ができていない方々が多い福島県の内陸部から、参加者を募って希望するチームを招待することになりました。窓口になってくれた方との話の中で、「子どもたちに、屋外で思いっきり深呼吸させてあげたい」という言葉が印象的であり、ぜひともこのイベントを成功させたいと思いました。

希望を聞きながらイベントのプログラムを再考

静岡県には、男子では「浜松東三河フェニックス」、女子では「シャンソンＶマジック」というバスケットボールで全国的にもトップレベルのチームがあります。以前より、この２チームともイベント等でつながりを持っていました。当初は、今回も地元の参加者と共に、トップチームのクリニックを受け、バスケットを楽しんでもらうことをメインにしようと考えました。「シャンソン V マジック」は都合により来られず、今回は男女共に「浜松東三河フェニックス」のクリニックを受けました。

福島で窓口になってくれた方のご尽力で、中学生の男子（福島第四中）１チーム、中学生の女子（飯館中）１チーム　高校生の女子（福島西高校）１チームが、夏休み最後の週末に静岡に来ることが決まりました。福島西高校は、この年のインターハイに出場した強豪チーム、福島第四中は 3 年生を中心としたチーム、飯館中は放射能のため避難せざるを得ない地域で、ほとんどバスケットボールの練習ができないチームということでしたので、それぞれのチームの希望も聞きながら、イベントのプログラムを再考しました。

そこで高校女子は、クラブ会員が顧問をしている高校との強化合宿の色合いを濃くしました。中学生は男女共に、当初の予定通り、第１部はクラブの中学生の教室メンバーとの交流ゲームを中心とし、第２部は「浜松東三河フェニックス」の協力を得て、クラブ内外からも多くの小中学生を集め、一緒にクリニックを楽しむことを計画しました。

中学生の交流会では、クラブの男子メンバー対福島第四中、クラブの女子メンバー対飯館中で対戦を行いました。クラブの男子メンバーが１年生中心のため、福島第四中に歯が立ちませんでした。女子は、久しぶりにバスケットボールに触ることができた飯館中の生徒も、勝負を度外視してクラブの女子メンバーと、本当にうれしそうに楽しそうにバスケットボールに取り組んでくれました。

また、フェニックスのクリニックでは、日頃ふれあうことの無い大きな選手たちと、笑顔が絶えない暖かい雰囲気の中、生徒たちは目を輝かせ精一杯バスケットを楽しんでくれたと思います。

遠くはなれていても忘れることなく応援している

その日の夜に、福島から来た生徒やスタッフ・保護者の方々と食事会を兼ねた交流会を開きました。十分なもてなしはできなかったのですが、子ども達から、震災当時の福島の様子や生活が大変だった話、また、多くの方々への感謝の気持ちを聞くことができました。その後も、時間をかけてスタッフとの交流会は続きました。

今回来てくださった方々に、「同じスポーツを愛好するものとして、たとえ遠くはなれていても、絶対忘れることなく、皆さんを応援させていただきます」というメッセージは伝えることができたと思っています。

今回のこの縁を大切にしながら、この関係をお互いの地域の交流にまで育

てていきたいと考えています。今年の正月に、元気にがんばっている姿が写っている飯館中学からの年賀状を見て、とてもうれしく思いました。

最後に、このイベントを開催するにあたり、合宿所を宿舎として提供してくださった清水東高校・清水西高校、会場となった清水ナショナルトレーニングセンターの皆様、その他企画に関わっていただいた多くの皆様に感謝の意を表して結びとします。本当に有り難うございました。